プログラム近況報告

2014年度（2013年10月1日～2014年9月30日）

World Vision
この子を救う。未来を救う。

インド　プドゥコッタイ地域開発プログラム(IND-194856)

自助グループの一員として活動するマリアンマさん（左）と家族

ファミリーストーリー

家族の生活と地域を良くしていくために自分から働きかけることを学んだマリアンマさん

プドゥコッタイ地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域で暮らすマリアンマさんは、「女性は父親の許可なく外出してはいけない、質問をしてはいけない、問題に対して行動をとってはいけない」といった戒めを受けて育ったため、「以前はただ外が怖くて、自信がありませんでした」と言います。そんなマリアンマさんは、２年前からADPの活動に参加するようになりました。最初は活動に参加する女性はいませんでしたが、ADPのスタッフが村の人々とゆっくりと関係を構築し、女性たちに家を出て村での活動に参加するよう促していきました。

マリアンマさんの２番目の子ども、マヘシュワリちゃんは低体重でしたが、ADPのチャイルドとして登録され、栄養プロジェクトで90日間栄養価の高い食事の提供を受けました。同時に、マリアンマさんも安価で手に入りやすい材料で栄養価の高い食事を作る方法を学びました。また、低体重児のいる10家庭には乳牛が提供されました。「毎日7リットルの牛乳が手に入るようになりました。1リットルを子どもたちのためにとっておき、残りは売って家計の足しにしています」とマリアンマさんは喜んでいます。

マリマンマさんは、ADPの自助グループの一員でもあります。自助グループは10～15人の女性の集まりで、共同で貯金し、2カ月に一度、必要とする女性がお金を借りることができるシステムです。マリマンマさんは、自助グループからお金を借りて、泥作りからレンガ造りの家へと建て替えることができました。

マリマンマさんは、ADPの活動に参加してから、自信を持って自ら行動するようになりました。村に井戸が必要であることを訴えるため、自助グループの女性の署名を集め、嘆願書を作って村の政治家やメディアに働きかけ、努力の末に村に井戸ができました。また、子どもを学校に通わせていない両親のところに行って理由を聞くなど、ほかの家族の変化を促す働きもしています。自信がなく家にこもっていた一人の女性の変化が、村にさらなる変化をもたらしつつあります。

かつては低体重だったマヘシュワリちゃん（7歳）。栄養プロジェクトで90日間栄養価の高い食事の提供を受け、健康状態が改善しました

保健衛生プロジェクト

子どもたちの健康改善に取り組んでいます

支援地域ではトイレなどの衛生設備が整備されておらず、また手洗いの習慣が根付いていないため、下痢が広がりやすく幼い子どもたちの命を奪うことすらあります。2014年度は、行政機関と連携し地域の中等学校・上級中等学校10校で手洗いや栄養価の高い食事について学ぶイベントを開催し、生徒4,507人が参加しました。また、女性差別や早婚の習慣が根強いため、特に思春期の少女たちは様々な困難に直面しています。ADPでは、地元メディアなどと協力しながら啓発活動を実施したほか、健康について学ぶ2日間のトレーニングを実施し、少女100人が参加しました。

保健・栄養について学ぶイベントに**4,507**人が参加

学校で手の洗い方を学ぶ子どもたち

ADPの支援で学校に男女別の水洗トイレができました。屋根の上にあるのが水のタンクです

支援地域の女性のインタビュー

子どもたちの栄養・健康状態改善のために活動しています

Q.家族構成を教えてください。

運転手をしている夫と、9年生の息子、7年生の娘の4人家族です。

Q.子どもの頃学校に通いましたか。

はい、12年生まで通いました。その後は裁縫を学びました。

Q.ADPのどのような活動に参加していますか。

ADPのスタッフに勧められて、保健ボランティアの研修を受け、保護者と毎月ミーティングを持って、栄養不良や子どもの権利に理解を深めてもらう活動をしています。

Q.ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。活動についてどう思っていますか。

子どもの権利についていろいろ学びました。5歳以下の子どもに対しては特にケアが必要なことも知りました。どのように周りの人と会話をしたらいいのかも学びました。ADPは親や家族の在り方を指導してくれますし、貧しい家庭には特に有益な活動をしてくれています。

Q.今の夢を教えてください。

以前は夢などありませんでした。子どもを育てるので手一杯でした。夫の給料は安く、家賃を払って食べたらおしまいで、日々のやりくりに四苦八苦していました。今の夢は家を買うことです。また、子どもたちには私がしたような苦労はさせたくありません。よく勉強し、良い人生を送ってほしいと思っています。

保健ボランティアをしているスンダリさん（34歳）

経済開発プロジェクト

子どもたちが健やかに成長するためには、親の収入の安定が不可欠です

ADPでは、地域住民が参加する自助グループの育成に取り組んでおり、現在では124のグループに447人が参加。マネジメントスキルの研修や、家畜の飼育方法、農業トレーニングなどを実施しました。支援地域内の3カ所のコミュニティでは、ADPの支援で乳牛を飼育している人々が協同組合を作り、民間の乳製品販売企業にミルクを販売しており、収入が向上しています。また、学校を卒業または中途退学した15～19歳の少女100人に、収入向上のためクラフト作りなどのトレーニングを実施しました。弱い立場に置かれている女性や少女たちにとって、収入向上のスキルを身に着けることは家計の助けになるだけでなく、自尊心の回復にもつながります。

ADPの支援で牛の飼育を始めた家族

$447人が自助グループに参加

栄養プロジェクト

5歳以下の子どもたちの栄養改善を目指しています

2014年度も、支援地域の子どもたちにとって最も大きな課題である栄養不良の改善に取り組みました。中でも大きな役割を担っているのが、保健ボランティアとして活動している40人の女性たちです。彼女たちはADPのトレーニングを受け、同じ地域に住む5歳以下の子どもや妊娠中・授乳中の女性の健康状態をモニタリングしています。栄養状態の悪い子どもや、産前産後の健診を受けていない女性に対しては、近隣の母子保健センターで適切なケアを受けるよう働きかけています。

さらに、特に貧しく栄養不良の子どもがいる227世帯にヤギ5頭を支給し、飼育のトレーニングを実施したほか、303世帯に家庭菜園のための種子や苗木を支給しました。

サラニスワラン君は以前は年齢に対して低体重でした。しかし、ADPの栄養プロジェクトを受け、今では標準の体重になりました

栄養不良の子どもがいる227世帯にヤギを支給

教育プロジェクト

子どもたち自身が、地域に変化をもたらしています

2014年度は、33の「子ども議会」が活発に活動しました。「子ども議会」のメンバーは、自分たちの地域の課題について考えるだけでなく、その解決のために地域の大人や行政機関に働きかけています。「子ども議会」の働きかけの結果、村から離れた学校への無料の通学バスが整備されるなど、子どもたち自身が地域に変化をもたらしています。また地域住民の協力のもと、リーダーシップや子どもの権利などについて5日間かけて学ぶイベント（ライフ・スクール）が開催され、3,546人の子どもたちが参加しました。

「子ども議会」で発言する議会のメンバー。児童労働に対する対策について話し合っています

ライフ・スクールに3,546人が参加

ADPスタッフ・インタビュー

Q どんな仕事をしていますか。

A 自助グループや子どもクラブの形成、トレーニングの実施、チャイルドのモニタリングなど、様々な業務を行っています。支援地の村に行って、自助グループの活動状況を記録したり、チャイルドと面談したり、5歳以下の子どものデイケアセンターの訪問、ヘルスワーカーの指導もします。学校を訪問し何が支援できるか一緒に考えることもあります。経済的な支援をしている家庭では、その効果も見ます。例えばヤギを5頭提供した家庭が、その数を増やしているかどうかなどを確認します。

Q 2014年、仕事をする中で大変だったことは何ですか。

A ADPでは女性の自立を支援していますが、ADPの活動に参加して自立していく妻に不満を募らせたある男性に暴言を浴びせられた時は、3日間くらいよく眠れませんでした。

Q この仕事の何にやりがいを感じていますか。

A 私は子どもが大好きです。子どもたちを見るともっと働こうという気持ちになります。

プドゥコッタイADPのスタッフ。前列左端がインタビューに答えたスダー・セバスチャン

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

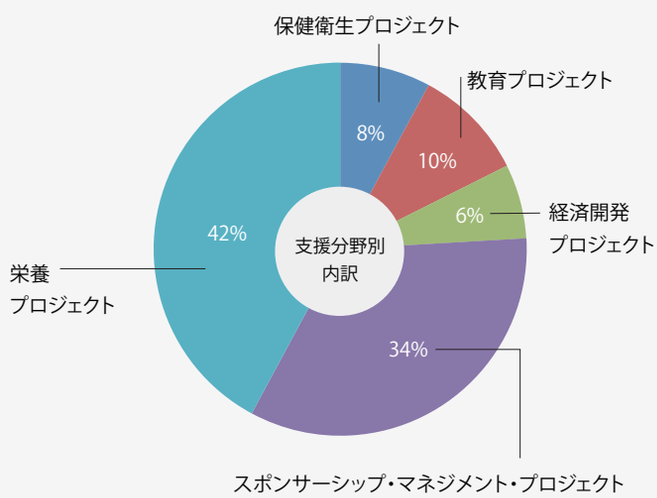
子どもケアセンターで誕生日を祝ってもらいました

会計報告

IND-194856

収支計算書　自 2013年 10月1日　至 2014年9月30日

プログラム支援額 (単位:円)	
チャイルド・スポンサーシップ	34,023,413
当期支援額	34,023,413
前期繰越金	2,954,686
プログラム支援額合計	36,978,099
プログラム支出額	
保健衛生プロジェクト	2,909,449
教育プロジェクト	3,600,510
経済開発プロジェクト	2,389,206
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	12,492,913
栄養プロジェクト	15,576,511
プログラム支出額合計	36,968,589
次期繰越額	9,510



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351（平日 9:30 ～ 17:00）

FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン　検索

ホームページ：www.worldvision.jp

e-mail : dservice@worldvision.or.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください